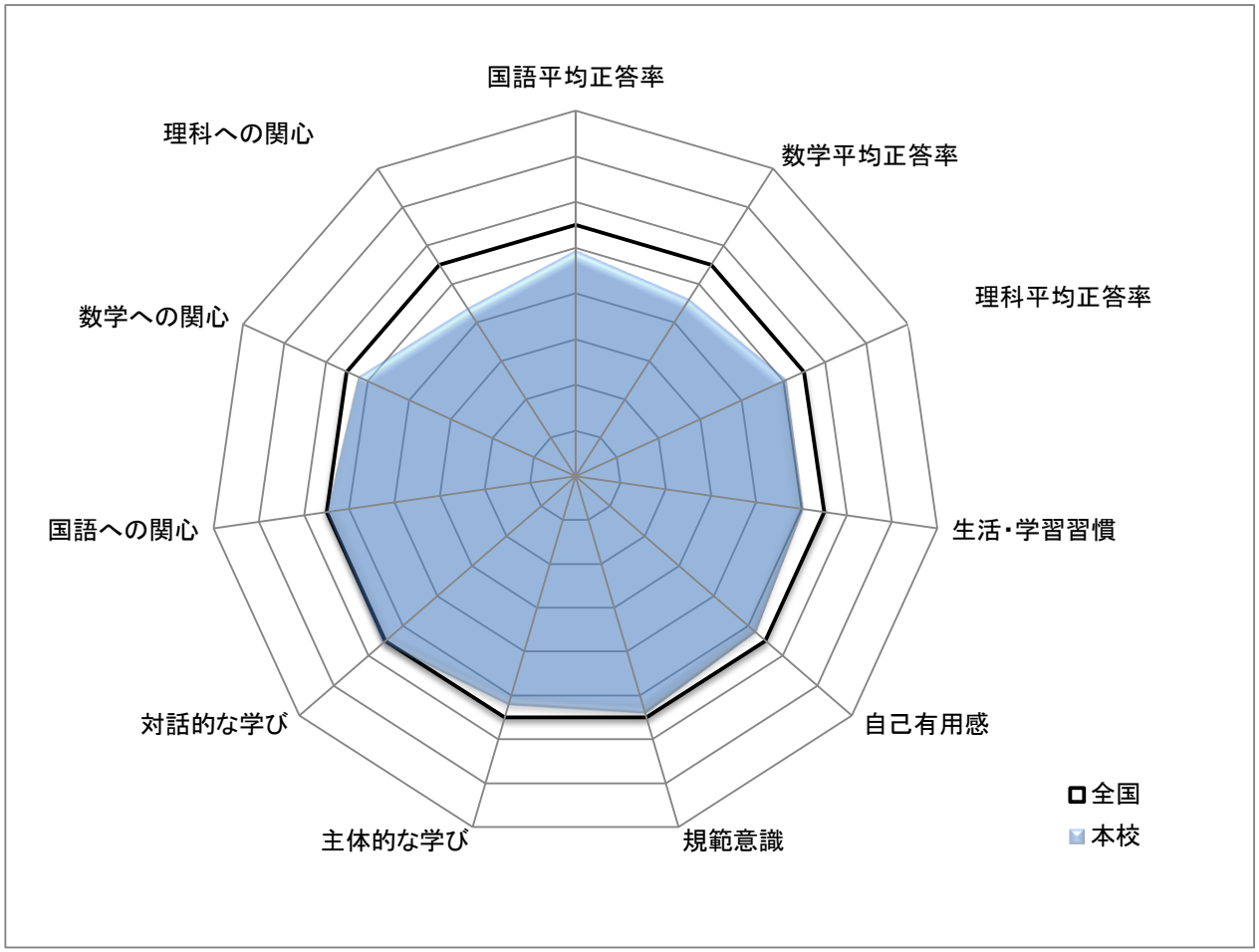
令和４年度全国学力・学習状況調査結果における課題分析表（中学校）　　江戸川区立南葛西第二中学校

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

教科の平均正答率は、全国比-9～18ポイント下回った。国語への関心はほぼ全国平均であるが、正答率は-12ポイントである。また、数学も関心度と比較して、正答率が低い結果となった。一方、理科は関心度が-23ポイントに対して正答率は-9ポイントと高い。
生徒の関心と学力が相関関係となるよう指導方法の工夫が必要である。

《授業改善のポイント》

【国語】資料の読み取りに課題が見られたため、引き続きグラフや資料を活用して授業を行う。記述式の問題では、白紙回答の割合が多かったため、常に自分の考えや意見を書く習慣を身につけさせる授業を行う。
【数学】関心意欲はあるが家庭学習の定着に課題がある。問題集を日割りにしたり、タブレット学習を活用し、反復と継続により学習習慣の定着と成果につなげる。
【理科】将来理科が役に立つと考えている生徒が少ない。身近で活用されているものを具体例としてICT活用によりイメージさせ興味を喚起する。ICT活用、体験型学習、実験を増やし興味関心を高め、楽しく学べる授業の展開を図る。演習問題を宿題として課すなど問題慣れを図る。

《チャートの特徴》

全国基準を下回ったが、各教科への関心や対話的主体的規範意識などは全国標準と同等である。
理科への関心が低いものの全体のバランスはとれている。
各教科の正答率の向上に向けて、学習習慣の改善が課題である。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習の定着に向け、
①宿題の提供と確実な実施。
②学習コンテストに向けた学習。
③読書の推奨。
などにより、家庭における毎日の学習習慣を定着させるよう、学年、学校だよりや保護者会等で働きかける。